

第1回奈良 ESD 連続セミナー

大西 浩明

- ◇日時：2026年5月12日（火）19時～21時
- ◇方法：Zoomによるオンライン形式
- ◇参加者：59名

- ◇内容：「ESDの国際的な歴史と動向 ～国連ESDの10年からGAP、そしてESD for 2030へ～」
奈良教育大学教授 及川幸彦

持続可能な開発を達成する（SD）ためには、

経済成長、社会的包摂、環境保護という3つの主要素を調和させることが不可欠

ESD（持続可能な開発のための教育）とは何か？

「…新たな価値観や行動等の変容をもたらし、もって持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動のことである。」

様々な諸課題を身近なところから考える



新たな価値観と行動変容



持続可能な社会をつくっていくことがゴール そのための教育こそがESD
「for」の意味はそこにある

SDGs達成に資するESDの教育的価値

①ESDに取り組むことで「教育の質が向上する」 Eを重視する視点

②「教育が持続可能な社会づくりに貢献する」 SDを強調する視点

この両輪の連結こそがESDを特徴づけるものであり、ESDの価値を示すもの

ESDの経緯

- 1992 地球サミット 「アジェンダ21」
- 2002 ヨハネスブルク・サミット 「国連ESDの10年」を提案
- 2005 国連ESDの10年（～2014）
- 2009 ESD世界会議 「ボン宣言」
- 2014 ESDに関するユネスコ世界会議 「あいち・なごや宣言」 国連総会でGAPを採択
- 2019 国連総会でESD for 2030を採択

日本の「国連ESDの10年」の取組

「〇〇教育」と呼ばれるものを包括するもの

「〇〇教育」は、登山で言うと登り口

持続可能な社会をつくるための入口はいろいろある

ボン・サミットでは「ジャパンレポート」を作成し、日本の取組を世界に発信



東日本大震災（2011）によって、日本の ESD が大きな転換点を迎える

→ 国内実施計画の改訂

動画視聴 「3.11 東日本大震災の津波」「気仙沼における ESD/防災教育の革新」

日本においては、自然災害への万全な備えが、持続可能な発展所ために絶対的な必要要件

これまで以上に自然への理解を深めるとともに、自然との共生のあり方について真剣に考えることが必要！

「持続可能な社会」像を考え直さなければならない！

新しい地域づくり、社会づくりを日本全体で構想していく

「持続可能な社会」はその際の柱となる考え方の一つとなる

階上中学校 「天を恨まず」梶原祐太くんの答辞

その背景を知ると、彼の言葉の意味がより深く理解できる

その後、階上校区では震災を受けて漸進的に地域を挙げて取り組んでいる

ESD に関するユネスコ世界会議（2014）で、「国連 ESD の 10 年」の後継プログラムである

GAP（グローバル・アクション・プログラム）を開始

5 つの優先行動分野（政策的支援、機関包括型アプローチ、教育者、ユース、ローカルコミュニティ）

SDGs の登場（2015） 「2030 アジェンダ」

MDGs（2000～2014）からの発展

途上国だけでなく、先進国を含めたすべての国で推進

普遍的、不可分・関連、変革的・野心的

教育は 4 だが、4 だけやればよいというものではない

UNESCO ウィーク 2017（オタワ）

ESD と GCED（グローバル・シチズンシップ教育）を二大テーマに議論

次期 ESD SDGs for 2030 について議論し合意

これからの ESD の方向性

ESD for 2030

① ESD は持続可能な社会の担い手づくりを通して、17 すべての目標の達成に貢献するもの

② ESD をより一層推進することが、SDGs 達成に直接・間接につながっている

③ SDGs を、ESD で目指す目標が国際的に整理されたものとして捉えることもできる

17 の SDGs 達成における教育の役割を重視

- ・ ESD は教育現場における 17 の目標に対する意識を高める（認知的学習の次元）
- ・ ESD は SDGs についての批判的かつ文脈に沿った理解を促す（社会的・情緒的学習の次元）
- ・ ESD は SDGs 達成へ向けた行動を結集する（行動学習の次元）

ESD for SDGs 推進の 5 つの視点

視点 1：SDGs の目標とこれまでの地域や学校の取組を関連付け整理する

視点 2：SDGs の視点で、身近な取組の国際的な課題への貢献を評価する

視点3：各目標が相互に関連していることを、地域課題から整理・意識する

視点4：SDGsを国や地域の課題に即して、焦点化し優先的に取り組む

視点5：SDGsの達成には、教育（人づくり）が重要であることを再認識する

「自己実現」の教育から、「共に生き、共に創る」教育へ